

2021年5月28日
一般社団法人 新金属協会
化合物半導体部会
部会長 山田 雅人
信越半導体株式会社
化合物半導体部 部長

2020年度通期の化合物半導体の出荷統計について

2020年度通期（2020年4月～2021年3月）の化合物半導体材料の出荷統計がまとまりましたので別紙の通り発表いたします。

2020年度通期（2020年4月～2021年3月）の化合物半導体製品の出荷額は、260億円となりました。結晶別では、GaPが減少し、GaAs、InP、その他が増加致しました。用途別では赤外LED、LD、その他が増加、可視LEDが減少致しました。

1.GaAs

2019年度通期のGaAsの売上高は、150億円となり、国内、海外ともに増加しました。GaAsの主な用途市場はスマートフォン等に使用される高周波デバイス、また各種の表示機器やセンサ等に使用される可視・赤外LED、および光ディスク・加工機・センサ等に使用されるレーザダイオード（LD）等がありますが、2020年度はスマートフォンの5Gへの移行によって関連デバイスが伸びたためと推察しています。

2.GaP

2020年度通期のGaPの売上高は、14.9億円となり、国内、海外ともに減少しました。2020年度は、新型コロナウイルスの影響あり、主な用途である車載、家電等の需要落ち込みが続いたことが減少の原因と推察されます。更にGaP系から高輝度AlInGaP系やGaN系LEDへの置き換えが継続していることも要因の一つと推察しています。

3.InP

2020年度通期のInPの売上高は、77億円となり、国内、海外ともに増加しました。InPの主な市場は光通信用の受発光素子ですが、2020年度は国内外の各種用途で所要が堅調に推移した結果と推察しています。

<お問い合わせ先>
化合物半導体部 担当部長
小原 正義
電話-027-385-2970 Fax 027-385-2773
e-mail : m-obara@seh.jp